

イメージーションわきたつ

遺跡巡りコース

コンセプトポイント



1 宮山農村公園

国の農村公園整備事業の一つとしてできた公園で、公園内には宮山遺跡がある。縄文時代後期の敷石住居跡1棟、弥生時代から平安時代にかけての建物跡や祭祀跡がある。また、古墳時代中期に造られた宮山大塚古墳と、周囲にある古墳時代後期に造られた6基の古墳もあり、古代遺跡が密集している。敷石住居跡は市内最古の住居跡で、1968年に市指定遺跡に選定された。

チェックポイント 6基ある古墳の中の1号墳は、横穴式石室が完全な形で残っており、当時の様子を知ることができる。



2 行者塚古墳

古墳時代中期に造営された全長99メートル、高さ9メートルもある、市内最大の前方後円墳。平成7年度の学術発掘調査において、日本最古級の3世紀の金銅製帯金具(こんどうせいおびがなぐ)などが出土した。現在は葦山石で墳丘をおおう等、調査結果に基づいて復元処理が施されている。

チェックポイント 行者塚古墳・尼塚古墳・人塚古墳とを合わせて西条古墳群と呼ばれ、復元処理のいかにもあり当時の形がわかりやすく残っている古墳。



3 尼塚古墳

全長約51メートル、高さ6メートルの造出[祭祀を行う場所]付円墳。周囲には幅約7メートルの濠がめぐらされている。墳丘は2段に作られており、上段の斜面は表面を葺石で覆われているが、下段にはない。上段と下段の間には埴輪が並べられていた。埴輪の特徴などから、古墳時代中期のもので行者塚古墳より新しいものとみられている。



4 人塚古墳

古墳時代中期の円墳で、墳径約50メートル、高さ約9メートル、周濠約18メートルの大型古墳。前方部を除き、周濠(古墳の周囲に掘られた堀)も残っている。前方部には造出を持っていたが、現在は削られて消滅している。円墳としては県下最大の規模。



5 西条廃寺

奈良時代前期のもので、法隆寺式伽藍(ほうりゅうじしがらん)をもつ市内最古の寺院跡。出土遺物の九輪(くりん)・風鐸(ふうたく)は復元され、加古川総合文化センターで展示されている。現在は県指定史跡公園「北山公園」として整備され、塔・金堂・講堂の基壇(きだん)や、中門・回廊跡などが復元されている。特に、塔の瓦積基壇には一部当時の瓦を使用しており実際その場に身を置いているような感覚が味わえる。

チェックポイント 復元された基礎部分に立つと、当時の建物の様子を知ることができる。

意外と知られていませんが加古川には多くの遺跡が残っています。

奈良時代の寺院跡や、古くは古墳時代、縄文時代の遺跡もあり、日本の歴史の一部を垣間見ることができます。

昔の時代にタイムスリップしてみませんか？

